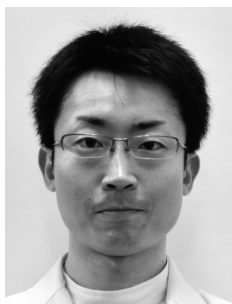


脳神経研究奨励賞 (新見賞)



河野祥一郎

略 歴

昭和56年8月23日生

平成18年3月 岡山大学医学部医学科卒業

平成18年4月 独立行政法人国立病院機構岡山医療センター研修医

平成20年4月 独立行政法人国立病院機構岡山医療センター神経内科

平成21年4月 特定医療法人緑社会金田病院内科

平成21年7月 独立行政法人国立病院機構岡山医療センター神経内科

平成22年4月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程入学

岡山大学病院 神経内科医員

平成26年3月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程修了

平成26年11月 岡山大学病院 神経内科助教

現在に至る

研究論文内容要旨

新規経口抗凝固薬（NOAC）は脳卒中と全身性塞栓症の予防効果はワルファリンと同等かそれ以上、頭蓋内出血発症率はワルファリンより大幅に少ない。また頻回なモニタリングは不要で食物や薬物との相互作用も少なく吸収も早いなど、従来のワルファリンの欠点は大幅に解消されている。

ワルファリンを内服している患者が脳梗塞を発症した場合、出血性合併症のリスクがあるためPT-INRが1.7以下であればtPAによる血栓溶解療法を受けることができる。しかし、ワルファリン内服中の患者におけるtPA治療の安全性のデータは限られている。さらに発症4.5時間以内のNOAC内服中の脳梗塞患者がtPA治療の適応になるかどうかのガイドラインはない。本研究により、出血性脳梗塞ラットモデルにおいて、NOACはワルファリンと比較し出血性脳梗塞を軽減し運動機能を改善させることが示された。さらにNOAC投与群においてワルファリン投与群と比較し梗塞巣周囲のMMP-9の発現が抑制され、neurovascular unitの解離が抑制されることが示され、ワルファリン投与中の出血性脳梗塞発生のメカニズムの一端が明らかにされた。NOACは既に臨床で広く使用されている薬品であり、今後臨床治験でヒトにおいてもtPA投与時の出血性脳梗塞出現を抑制しうるか、その結果が待たれるところである。